

安達太良山・烏川左俣遡行報告

【山行月日】平成 28 年 7 月 7 日

【参加者】CL 上茂 SL 辻本 石橋 前田

【コース】奥岳駐車場 (8:35) ~co1200m 二俣 (10:30) ~左股大滝 (11:00) ~co1410m
奥の二俣 (12:30) ~登山道 (13:30) ~駐車場 (15:00)

千葉を午前 4 時に出発。渋滞もなく快適に東北道二本松 IC へ車を走らせる。

福島県に入り、鏡石付近で事件が起こった。前の車が中央分離帯のガードレールに追突し大破したのだ。あっという間の出来事で、ガードレールに追突し車の前部が飛び散り、スピンをして右車線を塞いで停まった。ブレーキを踏みながらその車に追突しないよう左に除け、散乱する車のパーツを踏みながら、路側帯に停車した。車間距離が詰まっていると追突していたであろう。

驚いたのは停車せず無関心に通過していく車！これは車からだと二次事故の危険性があると判断し、携帯で事故の一報を #9910 に入れる。もう一台停車した人が、事故車のドライバーの生存を確認してくれ、ドライバーが動く様子が見えたので、胸を撫で下ろした。原因は居眠り運転に違いない。事故を目の当たりにすると本当に恐怖に震える。ちば山の山行でも長距離が多いが、疲れからくる事故には本当に気を付けたい。

奥岳駐車場には 8 時に着く。空はどんよりと曇り空、風も強い。そくさくと沢支度をし、烏川の入渓点に向かう。あだたら溪谷自然遊歩道の案内板に誘われ、少し濁りのある烏川に入渓した。

すぐにナメが表われ、谿の風情を彩る。10mほどの魚止滝は左岸の遊歩道に上がり巻く。その後も次々に登場するナメや滝に飽きることがない。心なしか CL も気も浮いているのかピッチが速い。溪を渡す湯桶で小休止。取水堰から引かれた貯まり場で「これは源泉なのか？」と訝しげに遊ぶ。その後もナメ滝が連続し、曇天の中でも白く輝くナメにはしゃぎながら遡行する。co1200m の二俣を過ぎ、暫くすると階段状の大滝が、白く輝く水をダイナミックに落としている。記念写真を撮り、体が温まっているうちにと登る。階段状の滝はフリクションがよく効き、快適に登って行ける。滝上からは灌木がうるさくなり、腰を屈め、乗り越える遡行になってくる。これが結構、体力を失う。co1430m にある左の枯れ沢に入る予定が、今日の水量から判断し、できるだけ流れを詰め上がることにした。源頭部は藪に覆われ出し、枝がバシバシと頭を打つ。這いつくばって進むところも出る。やがて源頭の湿原に出ると心も軽くなり、もう一丁頑張れば登山道と、体力も復活してきた。再び藪に突入し登山道を目指す。笹藪だけでなく石楠花のような強い枝もあり、なかなか手強い。スマホのアプリ「地図ロイド」で現在地確認をすると、登山道は 10m もない。そのうちハイカーの声が聞こえ、無事、13 時 30 分登山道に出た。5 時間半ほどの山行であった。

行動食を摂り、濡れた登山道を沢靴でジャブジャブと快適に下りる。しかし、スキー場のゲレンデの登山道は滑る々々。ズボン、ザックを泥にして 15 時、奥岳駐車場に下山した。

私にとって今シーズン初のような遡行であったが、バランスが悪い。日帰りの荷物なのに、後ろへバランスを崩す。そろそろ引退を自覚しろと宣言されたような遡行であった。



あだたら溪谷自然遊歩道の看板から下りる



ナメ滝を登る



魚止の滝(10m)は左岸から



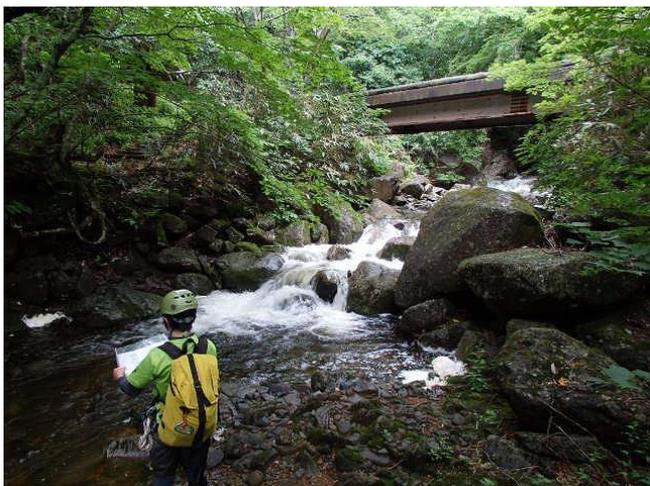
魚止の滝上部もナメ



ナメの中を高め高めへ



今日は水量が多い



車道が通る



小滝を登る



湯樋が見えてきた



取水口 ここまで人工物が多い



涼しいので水に入るのは嫌



釜の中にルートを探す



大滝にて